

## 01

## 検体について

検体とは“診療目的で採取した医療の検査に必要となる材料”のことを総称する医学用語です。患者さんから採取される血液や髄液、細胞、尿などの総称です。

一口に検体と言うと網羅する範囲は広いのですが、今回ここで取り上げる検体とは血液です。病気になって病院に行ったときや健康診断を受けたときに血液検査のため採血されたことは一度ならず経験されていると思います。

この血液が入っている採血管が検体搬送システムでいうところの検体になります。採血された検体は臨床検査室へと運ばれ、それぞれの項目ごとに検査されます。



## 01

## 検体について

血液検査の主だった項目としては、生化学、免疫、全血球計算、血糖、凝固などの検査があり、他には腫瘍マーカー、ホルモン等の検査があります。

採血時、数種の採血管で採血が行われますが、これは検査項目によって測定にかける血液成分が異なることに起因しています。血液の成分は血漿（液体成分）と血球（細胞成分）に分かれており、血漿から血液の凝固因子であるフィブリノゲンを取り除いたものは血清と呼ばれます。なお、血漿・血球に分かれる前の血液を全血と呼びます。

これら全血、血漿、血清を測定するため、検査項目ごとに専用の薬剤（凝固促進剤や抗凝固剤など）が添加されている専用採血管が必要になります。

